

みんなの安全な生活を守ってくれる警察や消防などの**公共サービス**や、学習の場として使っている学校や図書館などの**公共施設**には、「税金」が使われています。

では、税金はだれが納めているのでしょうか？また、だれがどうやって使い方を決めているのでしょうか？

この本を読んで、先生や友だちと税金のことを勉強しましょう。

くらしの中をみてみましょう。

身近なところで税金が使われています。

●今日のごみの収集日

衛生的な生活がおくれるように、ごみの収集や処理がおこなわれます。



●今日も元気に学校へ

平等に教育が受けられるように、教科書が無償で配られ、校舎をはじめ机やいすなどが整備されます。

●毎日通る道に

安全に通学ができるように道路を整備しています。



●安全な生活のために

安心して安全な生活がおくれるように、警察や消防などの公共サービスもおこなっています。



どのようなものに税金が使われて



税金が使われているものには○、そうでないものは×を、それぞれの〔 〕の中につけてみよう。

消防署〔 〕 警察署〔 〕 公立病院
薬局〔 〕 銀行〔 〕 コンビニエンス
児童館〔 〕 図書館〔 〕 公立小学校

公共サービスってなに？

ごみの収集と処理、安全を守る警察や消防など、わたしたちの生活に欠くことができないものであり、多くの国民に公平に利用されるサービスです。

いるか調べてみましょう。



には×を、それぞれの〔 〕の中につけてみよう。

〔 〕 市役所〔 〕 本屋〔 〕
ストア〔 〕 交番〔 〕 信号機〔 〕
〔 〕 道路〔 〕 公園〔 〕

みんなで出しあった税金でつくられたものだから大切に使わなきゃ。
答えは3ページの下をみてね。



公共施設ってなに？

図書館や公園、学校など、わたしたちみんなのためにつくられた建物などをいいます。「公共」とは「みんなの」、「施設」とは「建物や設備」のことです。

なぜ税金っていうの？

明治6年に、政府の収入を安定させるため土地にかかる税を定め、それまでの穀物などで納めていた「年貢」に代えて「お金」で税を納める制度を考えました。

そこで、「税」をお金で納めることから「税金」というようになりました。